

フィリピンタクロバン市で台風ハイアンからの復興に関するシンポジウムを開催し、イースタンビサヤス州立大学から感謝状をいただきました(2019/08/01-04)

テーマ：台風ハイアン、沿岸部の復興
 場所：フィリピンタクロバン市

2019年8月1日に、フィリピンタクロバン市で台風ハイアンからの復興についてシンポジウムを開催しました。東北大学災害科学国際研究所では、2013年の台風1330号(ハイアン)で被害を受けたレイテ地方において、被災直後の2013年度から復旧・復興支援調査、ならびに生活再建に関連した研究を続けてまいりました。今回は、5年間の復興・移転研究の進捗と研究の成果を教育機関、行政、住民に共有することを目的に、標記タイトルのシンポジウムを主催したものです。当研究所からは、井内加奈子准教授(人間・社会対応部門)、マリ・エリザベス准教授(情報管理・社会連携部門)が参加・発表しました。

日本側の発表者と内容は以下の通りです。

- **Six-year rebuilding effort after Yolanda**
 Kanako Iuchi, Associate Professor, IRIDeS, Tohoku University
- **Resettlement in Tacloban North - the Situation until now**
 Elizabeth Maly, Associate Professor, IRIDeS, Tohoku University
- **Expanding an education system in relocation: progress and challenges**
 Aiko Sakurai, Associate Professor, Toyo Eiwa University

その他、シンポジウムには、Alfred S. Romualdez 現市長が登壇し、5年間の復興の軌道を振り返り、これまで以上に強靱で魅力的な市にするための努力を惜しまないとメッセージが発せられたほか、被災した沿岸部の住民代表や住民、地域の大学教員、活動する現地・国際NGO、市職員等、約100名の参加があり、それぞれに5年間の軌道を振り返ることができました。

5年以上にわたる活動に対し、Eastern Visayas State University から災害科学国際研究所に感謝状をいただきました。またこの様子は、ABS CBN Eastern Visayas 放送局のニュースで放映され(2019/8/2)、その後、井内准教授は地域のラジオ局(BOMBO RADYO TACLOBAN)に出演し、タクロバンと東北の復興について話をする機会を得ました(2019/8/4)。



市長と記念撮影



研究内容を発表するマリ准教授



熱弁を振るう市長
(写真：タクロバン市)



真剣なまなざしで聞き入る参加者



ABS CBN Eastern Visayas
での放映



BOMBO RADYO 出演の様子

文責：井内加奈子(人間・社会対応部門)